

報 告 書

報告日 令和8年8月7日

日 時	現地視察 令和8（2026）年7月13日（月）午後1時20分から午後2時20分まで 意見交換会 令和8（2026）年7月24日（金）午後1時30分から午後2時30分まで
場 所 （会場）	半田小学校
概 要	・教育委員会指導主事学校訪問の現地視察について ・半田小学校の先生方との意見交換について
所 感 等	【山本博文委員長】 委員会の調査研究テーマの一つである「学力向上のための教育環境の充実」について、今回の教育委員会指導主事学校訪問の現地視察として市内半田小学校の授業参観に伺った。1年生から6年生までの教室と特別支援学級のサポート教室での授業参観を見ることができた。特に3年生の算数の授業では、習熟度別少人数授業を見ることができた。その中で、柏崎市が令和8年度の学校教育実践上の努力点である、授業づくりを中核とした柏崎の教育「3観7Pによる授業づくり」が行われていたことは学力向上に寄与していると感じた。 半田小学校の先生方との意見交換では、各先生方からは成果と手応えが感じられた。その中でも対話を重視した授業展開では、児童が活発に質問し発言する姿勢が定着し、総合学力調査でも改善が見られ、特に下位層への個別支援や階層改善に効果が出始めているとのことであった。また、指導の工夫では学年掛ける10分の家庭学習の習慣化を図り、カードによる見える化や課題設定を工夫しているとのことであった。特別支援教育では全職員で連携しており、児童に応じた学びの提供や15分間のモジュール学習、算数でのT・T（複数指導体制）、習熟度別指導を通じ、基礎学力の定着を支援していて、目標共有や色分けなどのUD（ユニバーサルデザイン）化も確認できた。今後の課題としては、先生方の業務軽減の取組を進める一方で、依然として先生方の時間外勤務が多く、現場の負担軽減が課題であると感じた。 【池野里美副委員長】 今回初めて、教育委員会指導主事学校訪問の際に、委員会として、半田小学校の授業の様子を1年生から6年生、サポート学級まで7クラスを視察し、実際に現場の先生方と意見交換会をさせていただいた。 委員会として、実際に学校の授業を視察させていただき、先生方との意見交換を行うというのは初めてのことであり、受け入れていただいた半田小学校、また、アテンドしていただいた教育委員会の山之内課長に心より感謝したい。 実際に現場を見て、どの学級も子供たちが授業に向かう態度がすばらしく、先生方の指導の賜物であると感じた。また、先生からの問いかけに対する反応も、低学年は

ほぼ笑ましい姿があり、高学年になるとグループやペアでお互いが納得するまで話し合う姿など、成長した姿を見ることができた。半田小学校では「対話」を大切にした学級づくりを行ってきたとのことで、自分が考えたことを素直に言い、友達の意見をじっくり聴く、ということを日々積み重ねることで、先生や友達に受け入れてもらえる安心感となり、温かな学級の雰囲気となっているのだと感じた。

意見交換の場でも、先生方が問題意識を共有できており、それぞれの学級の子供たち一人一人と真摯に向き合い、個々に応じた指導をしようと工夫されていることが伝わった。

特に算数では、低学年はT Tで進め、補助の先生が入り、3 学年以上は習熟度別のクラスに分けるなど子に応じた指導で学力向上を目指す工夫をされていた。

今回の現地視察と意見交換を通して、現場の苦労や努力を知ることができ、こういった先生方の努力が子供たちの成長につながっていることがよく分かった。しかし、現場は様々な子供たちや保護者が増えており精一杯やっても厳しい現状がある。子供たちや先生方にとってより良い教育環境となるためには、改めて人材確保や、人員の加配が重要であると感じた視察であった。

【三嶋崇史委員】

学校訪問は、教育現場の現状を知る上でとても貴重な経験であり、半田小学校の対応に感謝する。

子供たちが元気に遊んでいる姿は、昔も今も変わらない光景である。廊下ですれ違っても元気な挨拶をしてくれて、こちらがパワーをもらいすがすがしい気持ちになる。

各教室の授業、先生の指導力、タブレットを使いこなした主体的な学びの実践を肌で感じた。また、習熟度別授業が行われ、学びの多様なニーズに応える取組をしている。児童の様子は、教室をのぞいても動じることなく授業に真剣に取り組んでいる。教室の中は整理整頓され、学ぶ環境がしっかりと整えられていた。

意見交換会では、全国学力テスト・市総合学力調査結果は横ばいだが、対話を重視し、手応えを感じているとのことで着実に成果が現れている。特に家庭学習習慣の確立する工夫を感じた。カードを使い可視化し、親の役割をしっかりと位置付けている。30分はできるが40分はハードルが上がるようで、集中力、持続力が課題とのことであった。学力向上は個々の基礎学力アップはもちろんのことだが、クラス全体、学校全体での取組が重要であり、数字だけでは表せない先生や児童の努力、学習環境の充実が挙げられる。モジュール学習、ティームティーチング体制が授業改善、学力向上へとつながっていることが先生方の熱心な取組から伝わってきた。児童、保護者、先生、学校、教育委員会がワンチームとなり、学力向上推進計画が着実に教育現場で実践されていることが伺えた。

【田邊優香委員】

半田小学校の教育委員会指導主事学校訪問に伺い、校内の雰囲気の良さと子供たちの生き生きとした姿が非常に印象的であった。校内ですれ違う児童は皆、明るくはきはきと

挨拶をしてくれ、さすが「あいさつの半田」だと実感した。

今回は1年生から6年生、さらにサポートクラスまで幅広く視察したが、どの学年でも自分の考えをしっかりと持ち、積極的に発言する姿が見られた。授業の進め方についても、教師が一方的に知識を伝えるのではなく、子供たちの思考を丁寧に引き出しながら学びを深めていく進め方が印象的であった。問いかけや対話を通じて児童の主体性を育む授業が日常的に行われており、学校全体として「子供が学びの中心にいる」ことを大切にしている姿勢が伝わってきた。半田小学校が地域に根ざしながら、子供たちの力を最大限に伸ばす教育を実践していることを改めて感じた。また今回は、先生方と意見交換する場を設けていただき、日々の教育活動に対する強い情熱と、子供たちの可能性を伸ばしたいという思いを深く感じた。

学力向上だけでなく、子供一人一人の良さや興味関心を丁寧に見取り、伸ばすための工夫を重ねておられた。授業準備や校務の分担、保護者対応など多岐にわたる業務の中でも、子供と向き合う時間を確保しようと努力されている姿勢に頭が下がる思いであった。一方で、教員の負担感や業務量の多さについても率直な声が寄せられ、教育の質を維持しながら働きやすい環境を整えることの重要性を改めて認識した。子供たちの成長を支えるためには、教員が安心して教育に専念できる環境づくりが不可欠であり、どのような支援や改善が可能か、今後も調査研究を進めていく必要性を強く感じた。

【持田繁義委員】

- ・ 「学校の目指す子ども像の実現と学力向上に結びつく授業改善の推進」を目的とされる、教育委員会指導主事学校訪問の下、半田小学校の授業参観に参加した。
- ・ 1年生から6年生、そしてサポート教室をそれぞれ授業参観させていただいた。
- ・ 各教職員の熱心な授業対応に、子供たちも真剣に向き合って、学びに集中していたこと。
- ・ 教職員の言葉の発し方について、私自身の60年前の風景と物すごい違いを感じた。まさに、人それぞれの人格の尊重、人間形成に何が大事なのか、ある意味、「上から目線」ではなく、納得と理解の深みを追求する授業風景は印象的である。
- ・ 教室に掲げられていた「俳句」の一説は、今日的であり、子供たちのリアルな感覚を拝見できたことなど、意義ある授業参観であった。

【重野正毅委員】

- ・ 授業参観では、どのクラスも子供たちは主体的に学びに取り組んでいるように感じた。これだけ学習活動が整然と取り組めることはその前提となる生徒指導が十分行き届いているのだと思われた。一つのクラスの中には教科により学力にばらつきがあるのは当然なことだが、それにもタブレットの活用などにより適切に対応できている教員の指導力もすばらしいと思った。個に応じた指導やUDについても徹底した研修を行っていると思われる。生徒指導と学習指導は車の両輪と言われることが改めて思い出された。
- ・ 学力向上に対しての意見交換では、半田小学校として取り組んでいるT・Tや習熟度学習も効果的とのことであった。ただその実施に当たっての教員の不足感は全

職員が持っていた。定量的に測れる学力だけでなく、定性的に評価していく学力をどうするのかということについても、全職員が同じ考え方や意識を持っていた。読解力の育成や家庭学習の習慣化への指導なども、その子としての学力向上のために必要なこととして家庭と協力しながら進めていく取組はすばらしいと思った。その中、教職員の業務軽減については学校としてもほぼやりつくしているとのこと。しかし、超過勤務が減らなかったり、家庭との連絡に多くの時間を費やさざるを得ない現状があり、それをいかに改善できるかという課題が残っている。

【相澤宗一委員】

一つは、規範意識の醸成について。

特に1・2年生は、大きな声での挨拶と満面の笑顔が印象的で、学校全体に明るく活気ある雰囲気が感じられた。学力は学習到達度だけでなく、「あいさつ」や「元気」といった人としての基本的な資質があってこそ伸びるものと考えます。その背景には、先生方が日頃から生活指導を大切に積み重ねている姿勢があると感じた。

先般視察した会津若松市では、「あいづっこ宣言」に基づく規範意識の醸成を学力向上の基盤と位置付け、小学1年生から暗記の習慣化を促し、その努力を積極的に認め、褒める取組を行っていた。

こうした教育の積み重ねは、主体的に学ぶ姿勢や学力の定着につながるものと評価しており、本市においても、挨拶の励行や健康管理をはじめとする生活指導を教育活動の土台として引き続き重視していただきたい。

二つとして、やる気の醸成について。

3年生の算数では、習熟度に応じた3つの学習コースを設け、児童の希望を尊重しながらも、先生と保護者が十分に相談した上で適切な学習環境を整えている点を高く評価したい。

「どのような環境であれば子どもが自ら学びたくなるか」という視点で教育環境を整えることは、児童のやる気を引き出し、主体的な学びにつながる重要な取組である。本市においても、学校と家庭が連携し、一人一人の特性に応じた学習環境づくりを一層推進することで、学力向上につながることを期待したい。

現地視察



意見交換会

